

第84期
中間報告書

平成25年4月1日~平成25年9月30日

Micro&Fine Technology

【 経営理念 】

私たちは、お客様にとって価値のある商品とサービスの提供を通じて社会の発展に貢献します。

私たちは、情報を重視し、世界の変化にすばやく適応するため、技術・知識・行動の革新に挑戦し続けます。

私たちは、利益ある発展と、創造性豊かでいきいきとした企業風土の確立を目指します。

当社の経営方針について

当社はステンレス鋼線並びに金属繊維（ナスロン）を主力製品とし、長年に亘り培ってきた技術力と新しい技術分野への挑戦により、お客様にとって価値ある商品とサービスの提供を通じて社会の発展に貢献することを経営の基本理念といたしております。

また、株主の皆様並びにお取引先など、内外の関係先からの信頼と期待に応えるため、常に世の中の変化に迅速に対応できる柔軟な経営体制の構築を通じて、安定した収益基盤の維持・拡大を図るべく事業活動を展開してまいります。

株主の皆様へ

日本精線は、ステンレス鋼線のトップメーカーとして、次世代素材、技術開発をリードしつづけています。

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに、当社第84期中間期(第2四半期累計期間、平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)の事業の概況につきましてご報告申し上げます。

平成25年12月



代表取締役社長

近藤 龍夫

当中間期(第2四半期連結累計期間)におけるわが国経済は、新政権発足後の大胆な金融緩和や財政出動により過度な円高が修正され、株価も上向くなど、持ち直しの動きが見られました。しかしながら、中国をはじめとした新興国経済の減速や円安による原材料や輸入燃料価格の上昇等、景気の先行きには注視が必要な状況が続いております。

当社及び連結子会社(以下「当社グループ」という。)が属するステンレス鋼線業界におきましては、建材関連の需要が回復傾向にあることから、出荷数量は、前年同期比微増となりました。

このような状況下、当社グループでは、(1)高性能・独自製品(ばね用材、耐熱ボルト用材、金属繊維など)の売上高比率70%以上、(2)海外売上高比率30%以上などを経営目標とする『第12次中期計画(ミッション753)』(最終年度平成27年3月期)の達成に向け、収益の一段の向上に鋭意取り組んでまいりました。この結果、当中間期の売上高は152億6百万円と前年同期比1.1%増収となりました。

損益につきましては、ニッケル価格変動に起因するステンレス鋼線販売価格の下落等に伴う粗利の減少等により営業利益11億65百万円(前

年同期比10.4%減)、経常利益11億94百万円(同9.6%減)、四半期純利益7億41百万円(同10.7%減)となりました。

なお、中間配当につきましては、既に公表しておりますとおり1株につき5円とさせていただきます。

次に部門別の概要についてご報告申し上げます。

ステンレス鋼線部門

主力のばね用材が昨年実施されたエコカー補助金の終了による自動車業界での需要減退の影響等を受け低調に推移したものの、住宅関連の需要が回復傾向で推移した結果、販売数量は前年同期比微増となりました。一方で、ニッケル価格変動に伴う販売価格の下落等により、売上高は前年同期比横這いとなりました。

また、海外現地法人であるTHAI SEISEN CO.,LTD. につきましては、ニッケル価格変動に伴う販売価格の下落等もあり、タイ現地通貨では前年同期比減収となりましたが、円安パーツ高の影響を受け、前年同期に比べて売上高は増加いた

しました。

これらの結果、ステンレス鋼線部門の売上高は130億87百万円(前年同期比0.9%増)となりました。

金属繊維(ナスロン)部門

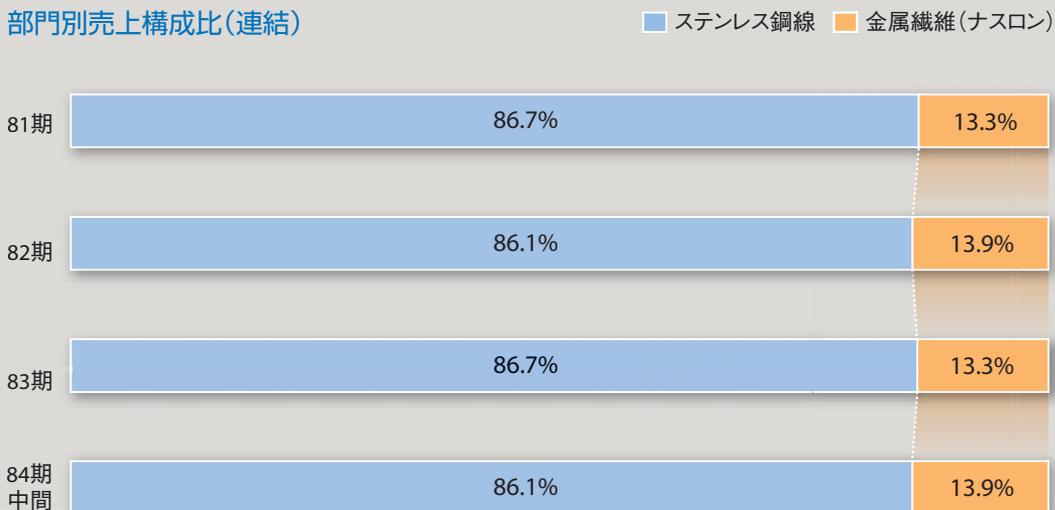
主力のナスロンフィルター分野が円安を背景に輸出が伸長した反面、国内市場は設備投資案件が低調に推移したため、減収となりました。一方、半導体機材分野では、韓国や台湾などでスマート

フォンやタブレット端末の需要増を受けた設備投資が再開となり、これら装置に用いられる超精密ガスフィルター(ナスクリーン)が大幅増収となったことなどにより、売上高は増加しました。

一方、海外現地法人である耐素龍精密濾機(常熟)有限公司につきましては、中国経済減速等の影響を受け、前年同期に比べて売上高は減少いたしました。

これらの結果、金属繊維部門の売上高は21億18百万円(前年同期比2.3%増)となりました。

部門別売上構成比(連結)



今後の見通しといたしましては、加速する製造業の海外移転、新興国経済の減速などによる海外景気の下振れ懸念、さらには電力料金や輸入燃料価格の上昇等懸念すべき課題は山積しております。

また、当社グループの主力製品であるステンレス鋼線は、中国や韓国のステンレス鋼線メーカーとの競争激化による収益低下などの懸念があり、加えてニッケル価格に起因する原材料価格の変動リスクなど厳しい環境下に置かれています。また、金属繊維(ナスロン)も化合繊維向けなどの一般汎用製品については競争が激しくなってきました。

こうした中で、当社グループは斯かる経営環境

に対応すべく、より筋肉質な企業基盤を目指し、前述の『第12次中期計画(ミッション753)』の課題に鋭意取り組んでおります。

具体的には、ステンレス鋼線部門において、販売面では国内外市場に対し、ばね用材や極細線をはじめとする高機能製品、自動車向け耐熱ボルト用材や高合金線などの独自製品の拡販に加え、新用途製品の立ち上げを推進しております。一方、生産面では需要家のグローバル展開に対応して海外2工場の拡張を図りつつ、引き続き国内外の最適生産体制を構築してまいります。開発面では当社グループの保有する技術力・ノウハウに大同特殊鋼グループの技術力を結集することによる新製品開発の強化や新規事業の確立など

業績の推移(連結)



※経常利益については、固定資産除却損の表示方法の変更を実施したため、遡及処理後の数値を記載しております。

に引き続き取り組んでまいります。

金属繊維部門では、中国・韓国の現地法人の活用による海外市場への拡販、また、国内でもより高機能化・高精度化する需要に応えるべく技術開発を継続して実施しております。

さらに新規分野では、本格的に生産・販売を開始したダイヤモンドソーワイヤー（商品名：さスカット）の拡販に注力するとともに、環境負荷物質を含まず高強度・高導電性を有するばね用銅合金線（商品名：エレメタル）などの新製品・新用途製品の拡充、さらには高純度の水素を取り出すことが可能な水素分離膜モジュールの商品化などにも鋭意取り組んでまいります。

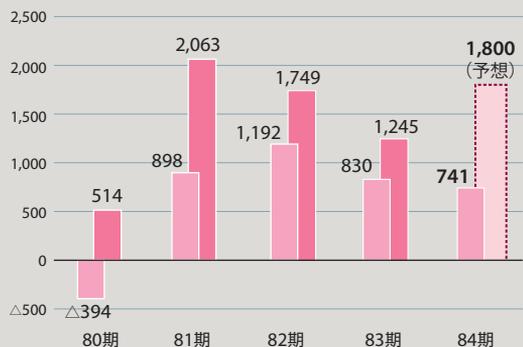
以上の諸施策を着実に実行し、収益の一段の

向上を図るとともに、事業のグローバル化推進や高度化・多様化する顧客ニーズへの対応などにより、『さらなる企業価値の向上』にグループ一丸となって取り組んでまいります。

なお、当第2四半期連結累計期間の業績は概ね順調に推移しており、平成26年3月期の連結通期業績につきましては、平成25年4月26日に公表いたしました業績予想に変更はございません。

株主の皆様におかれましては、何卒、一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

■当期純利益 中間 通期 (単位:百万円)



■1株当たり当期純利益 中間 通期 (単位:円)



連結決算

四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	期別	当第2四半期末 (平成25年9月30日現在)	前第2四半期末 (平成24年9月30日現在)	前期末 (平成25年3月31日現在)
資産の部				
流動資産		20,370	19,297	19,268
現金及び預金		8,024	6,775	7,421
受取手形及び売掛金		6,419	6,239	5,779
商品及び製品		1,832	2,283	1,944
仕掛品		2,278	2,276	2,424
原材料及び貯蔵品		1,386	1,246	1,314
繰延税金資産		272	321	259
その他		155	153	124
固定資産		12,452	12,458	12,216
有形固定資産		9,898	10,229	9,878
建物及び構築物(純額)		2,865	2,959	2,922
機械装置及び運搬具(純額)		5,135	5,235	5,075
土地		1,587	1,564	1,588
リース資産(純額)		22	24	27
建設仮勘定		51	197	17
その他(純額)		234	246	245
無形固定資産		309	307	305
投資その他の資産		2,244	1,921	2,033
資産合計		32,822	31,755	31,485

*財務諸表は以下に基づき作成しております。

- ①当第2四半期累計期間(末)及び前第2四半期累計期間(末)は四半期連結財務諸表規則に基づき、それぞれ作成しております。
- ②記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。
- ③一部の連結子会社について、国際会計基準の適用により遡及処理後の数値を記載しております。

科目	期別	当第2四半期末 (平成25年9月30日現在)	前第2四半期末 (平成24年9月30日現在)	前期末 (平成25年3月31日現在)
負債の部				
流動負債		6,454	6,089	5,998
支払手形及び買掛金		3,310	3,579	3,390
短期借入金		1,188	436	1,275
未払法人税等		530	545	213
賞与引当金		519	580	520
役員賞与引当金		—	—	23
資産除去債務		—	46	1
その他		904	900	573
固定負債		3,160	3,973	3,077
長期借入金		—	870	—
退職給付引当金		2,998	2,917	2,897
役員退職慰労引当金		127	125	142
資産除去債務		21	24	21
その他		12	35	16
負債合計		9,614	10,062	9,076
純資産の部				
株主資本		22,939	22,108	22,360
資本金		5,000	5,000	5,000
資本剰余金		5,446	5,446	5,446
利益剰余金		12,526	11,693	11,947
自己株式		△ 33	△ 31	△ 32
その他の包括利益累計額合計		59	△ 579	△ 147
その他有価証券評価差額金		198	△ 95	18
繰延ヘッジ損益		0	—	△ 0
為替換算調整勘定		△ 138	△ 483	△ 165
少数株主持分		209	163	196
純資産合計		23,208	21,693	22,408
負債純資産合計		32,822	31,755	31,485

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別	前期		
		当第2四半期(累計) (平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで)
売上高		15,206	15,036	29,500
売上原価		12,691	12,449	24,843
売上総利益		2,514	2,587	4,657
販売費及び一般管理費		1,348	1,286	2,613
営業利益		1,165	1,300	2,043
営業外収益		57	62	67
営業外費用		28	41	81
経常利益		1,194	1,321	2,029
特別利益		-	-	3
特別損失		4	4	13
税金等調整前四半期純利益 又は税金等調整前当期純利益		1,190	1,317	2,019
法人税、住民税及び事業税		493	515	719
法人税等調整額		△42	△41	33
少数株主損益調整前四半期純利益 又は少数株主損益調整前当期純利益		739	843	1,265
少数株主利益又は少数株主損失		△2	13	19
四半期純利益又は当期純利益		741	830	1,245

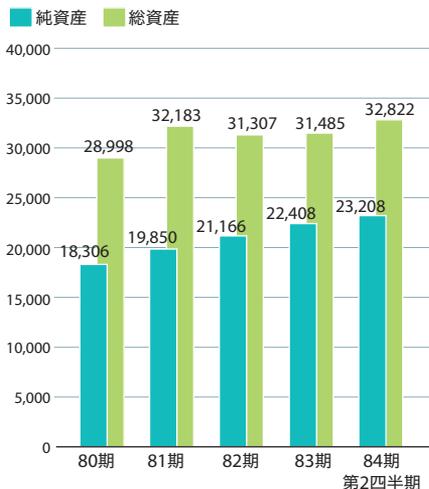
四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	期別	前期		
		当第2四半期(累計) (平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		1,182	1,388	2,835
投資活動によるキャッシュ・フロー		△413	△900	△1,602
財務活動によるキャッシュ・フロー		△254	△251	△505
現金及び現金同等物に係る換算差額		12	△39	115
現金及び現金同等物の増減額		526	197	843
現金及び現金同等物の期首残高		7,462	6,619	6,619
現金及び現金同等物の四半期末又は期末残高		7,989	6,816	7,462

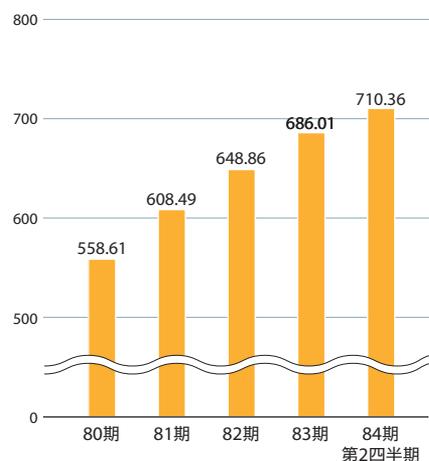
■総資産・純資産(連結)

(単位:百万円)



■1株当たり純資産(連結)

(単位:円)



会社の概況 (平成25年9月30日現在)

会社概要

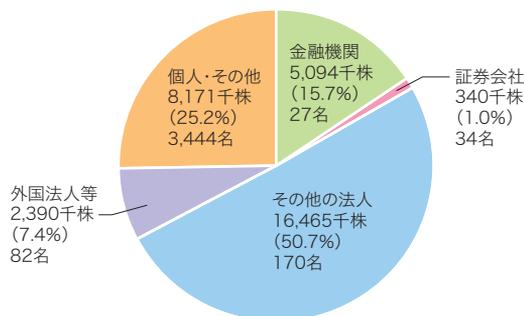
商号 日本精線株式会社
(英文名 NIPPON SEISEN CO., LTD.)
設立 昭和26年6月30日
資本金 50億円
従業員数 550名
ホームページ <http://www.n-seisen.co.jp/>
アドレス

当社グループの主な営業品目

ステンレス鋼線、ステンレス鋼直棒・異形線、高合金線、チタン線、金属繊維(ナスロン)及びその加工品、金属繊維焼結フィルター、半導体用超精密ガスフィルター、ダイヤモンドダイス、溶接棒、その他金属線

株式の状況

- 発行可能株式総数 82,800,000株
- 発行済株式の総数 32,461,468株
- 当第2四半期末株主数 3,757名
- 所有者別株式分布状況



当社グループの主要な事業所

■当社

本社 大阪市中央区高麗橋四丁目1番1号(興銀ビル)
支店・営業所 大阪(大阪市中央区)・東京(東京都中央区)
名古屋(名古屋市中区)・九州(福岡市中央区)
工場 枚方(大阪府枚方市)・東大阪(大阪府東大阪市)
名古屋(名古屋港区)

■主な子会社

会社名	出資比率	所在地
THAI SEISEN CO., LTD. (*)	95%	タイ国サムットプラカーン
耐素龍精密濾機(常熟)有限公司(*)	70%	中国江蘇省常熟
大同不銹鋼(大連)有限公司	74%	中国遼寧省大連

(*)は連結対象子会社

■大株主

株主名	持株数	持株比率
大同特殊鋼株式会社	13,103 ^{千株}	40.47%
日本冶金工業株式会社	1,688	5.21
株式会社みずほ銀行	1,086	3.35
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	934	2.88
ピーピーエイチ ポストン フォー ヌムラ ジャパン スモラー キャピタライゼーション ファンド	620065	1.82
前尾和男	541	1.67
特殊発條興業株式会社	532	1.64
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	522	1.61
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	412	1.27
株式会社池田泉州銀行	401	1.24

(注)持株比率は自己株式(84,971株)を控除して計算しております。

役員

取締役及び監査役

(*印の取締役は執行役員を兼務しております)

代表取締役社長	近藤龍夫
*取締役	衣川公尊
*取締役	岸木雅彦
*取締役	多賀正宏
*取締役	児玉勝
*取締役	菊田真佐人
取締役	立花一人
常勤監査役	稲垣多津夫
常勤監査役	住友清志
監査役	古池俊典
監査役	野中章男

執行役員

常務執行役員	衣川公尊
常務執行役員	岸木雅彦
常務執行役員	宮城修司
常務執行役員	多賀正宏
常務執行役員	児玉勝
常務執行役員	菊田真佐人
執行役員	中川準市
執行役員	新川博司
執行役員	川端泰司
執行役員	安部明夫
執行役員	西田成夫
執行役員	大間英之

株主メモ

決算期日 毎年3月31日

定時株主総会 毎年6月

基準日 定時株主総会 3月31日

その他必要のあるときは、取締役会で決議し、
あらかじめ公告する一定の日

剰余金配当の基準日 期末 毎年3月31日

中間 毎年9月30日

株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号

みずほ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号

みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

公告掲載方法 日本経済新聞に掲載

証券コード 5659

郵便物送付先 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

電話お問い合わせ先

みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

●電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)

●インターネット <http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/>

NIPPON SEISEN CO., LTD.

